

予報期間 8月5日から8月11日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 台風第13号については最新の台風予報を参照。
- 7日から8日にかけて、日本のはるか東の高気圧が日本の東に張り出す。
- 8日から9日にかけて、北海道付近を前線が南下する。
- 10日から11日にかけて、高気圧がオホーツク海に移動し、日本海に張り出す。

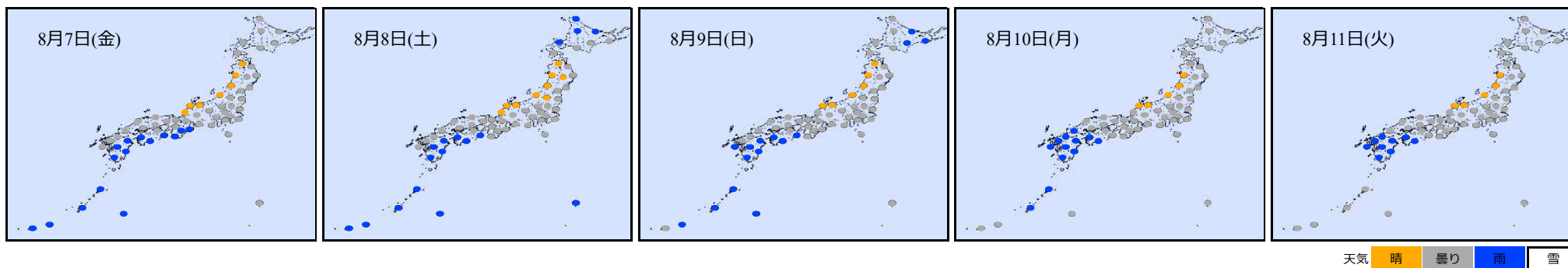
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 西日本太平洋側を中心に、9日頃にかけて、台風第13号の影響で波が高くなり、台風の進路等によっては警報級の大雨や大しけとなるおそれがある。
- 沖縄・奄美では、9日頃にかけて、台風第13号の影響で大荒れや大しけとなる所があり、台風の進路等によっては警報級の大雨や高潮となるおそれがある。
- 全国的に、気温が平年よりかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

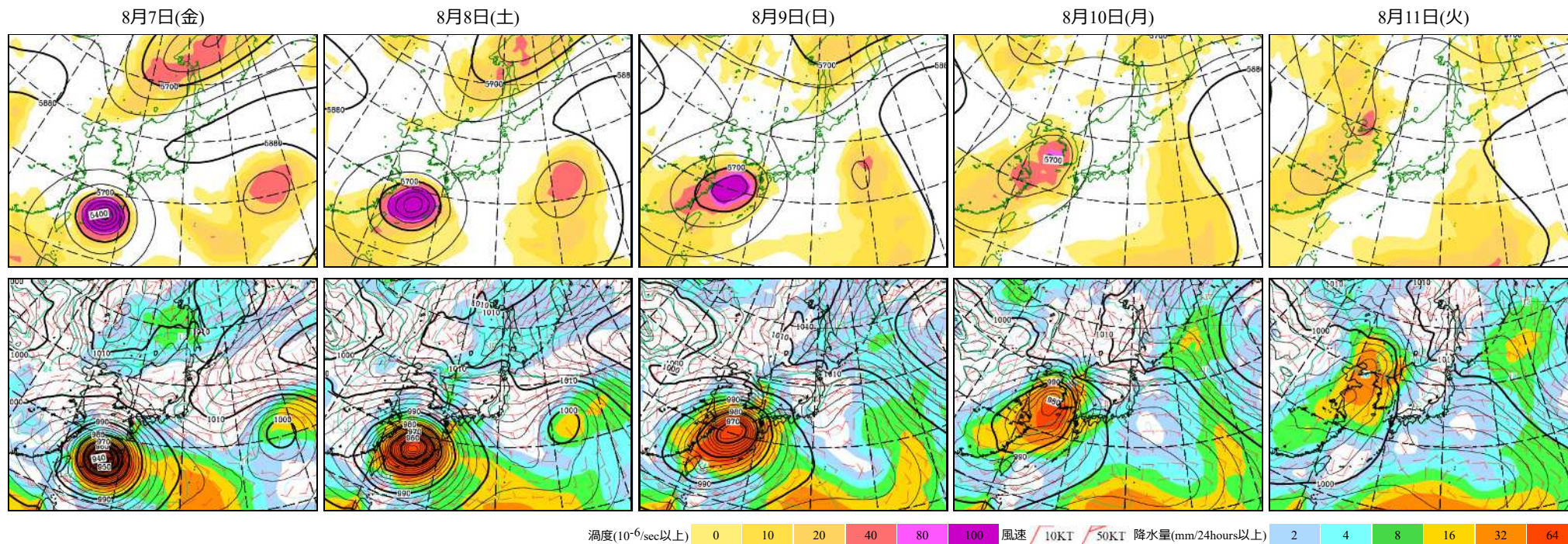
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

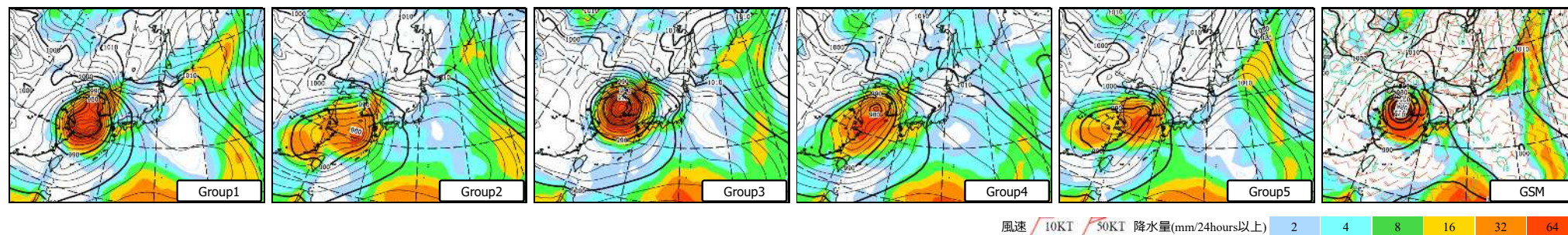


- 北日本は、曇りまたは晴れる所が多いが、8日と9日は雨の降る所がある。
- 東日本は、太平洋側は雲が広がりやすく、7日は雨の降る所がある。日本海側は晴れる日が多い。
- 西日本と沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月10日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、7日から8日にかけて中国東北区を進むトラフがやや深くなった他は、大きな初期値変わりはない。地上の気圧配置は、大きな初期値変わりはない。
- 各モデルともに、7日から9日にかけて中国東北区からオホーツク海に進むトラフが深くなった。
- ECMとNCEPは、10日の日本の東に熱帯低気圧を予想する。ENSは、同様の予想をするメンバーが1割程度あるが、発達しているメンバーはない。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。